

刊週

東北のあすの時報

行發日廿月一年九和昭
吉梅越堀
社報時工商北東
料部廣
金行一 料部廣
錢月々一 錢十金一
圓三共稅郵年々

TAIRA 正賀
TELEPHONE
9

鎖塞鎖談と

平町の將來

「其二」

KOMIN, FURUKAWA

過去數年間、於ける我が帝國の國情は餘りに多
端あり多事であつた。

思想界並に物價の變勢に於ても明て
あるまいか戰時中のみが(チモクラシー)であつて欲が
つたのであるまい各自階級を通じて今日眞の平衡を
得たのであらうか頗る疑問とせざるを得ない、眞の思
想は決して時代々々の局面をのみ考ふるものではなく
來るべき時代の現はすべき思想傾向を考査し其影響を
講究するに在る事は云ふまでもない。

亦眞の物價の平衡を期するには其動搖の芽を
剪除するが如き今日の物價では五十歩百歩ではなから
うか。

常に人心の靜穩を期し其機を見て徐々に將
來の安定を確保する事に大策を講ずべきものと思
ふ人生は肉體保全と思想の規律を最も望み俟たぬので
ある。

此事が最も簡單な眞理で三歳の童子も百歳の
老翁も同一である常に誰も勉めて居る事であるが自己
天性の氣性丈でも容易く亂され勝て況んや社會と云ふ
廣い舞臺に立つては狭い自己考慮は非常にはさされ易
い感され易いのである、其の處に人として其者として
は仲々爲し得難き大業業。ヒントを得る場合もある然
し多くの凡百は社會に遠ざかる社會を狭むるに到る行
爲に落入り勝となる人の生活は考ひ様に據りては頗る
單純である何々がよい何々をすれば健康が増進するか
何々すると愉快な生活が出来るかと特筆大書されたもの
に眩惑し一寸萬丈の遠吠の流行を呼ぶに到るも畢竟

夏の夕立程の功も齎す事は餘り聞ぬ。
期る流行の浮雲を追ふ其事の熱心さは茲に轉
せしめて自己の位置自己の信念自己の範圍を深く知る
點に傾注する事が大事と思ふ、平常其長短取捨に努力
を繼續する事に勉め其状態を生氣あらしむるが肝要で
ある。

今日の思想を以て云は、文化生活と云ふ事は簡
單にして安價なる贅澤生活の現實を指すのであると信す
るそれには個々獨立の智識の連鎖を計り相互持寄りの
智的生活を平等に樂しむので所謂科學的なる生活様式
合同となる總ゆるる方面の智識利便を利用する點に於て
一寸複雑に見ゆるが要するに消化性に形を換へての生
活である故に非常に心安の愉快に經濟的に人生を樂み
得らるゝ事で矢張人生の生活は亦一層單純に傾くもの
と見て宣ひ、段々世の中が複雑となり狭苦しいかの
感を抱くのは甚だ穩當でない事である。各自の努力の
不足不用意は稍ともすると。

其感をもたらしめて居るが判つて見れば寔
に愉快極まる世が展開しつゝあるのである、家庭に於
て悠々する如く社會に出で、心善い潤歩が相互に爲し
得らるゝ時代である。

茲に舊思想新思想との批判が。平町の現在に
批判され居る傾向も認めらるゝ。

平町も衆目環視其膨張展進が一層眼について
來た此の形勢を迎ひた事は第一交通系統上の地形上の
要點であるに歸するして亦其處に人をして安じて生活
せしむるの米鹽に次ぐの飯料水に對する考慮を拂つた
事は疑ない。

町内各道路の改修 下水等の工事も完成せし
は平町會議員諸君の努力に對して町民諸氏は多謝すべ
きである。
亦平町民は町會議 事を議員諸君にのみ委す

るなく、常に注意を拂ひ
自の將來に沿はしめん事を
希望する。
今日の平町は充
實を
計画すべき基礎時代に於て
亦發展の過渡時代に際會し
居るのである、
故に全町民の注意考慮當局
の施設考査更に諸君の審議
代表的見解は頗る緊要とす
べし。

諸君は働か
甲斐のある責任觀念を果す
べきの好機會來である。
是非慎りに町會
議員
議員の立場のためにも亦平
町の將來の大を爲す所以に
向て一大勇猛心を拂つて盡
されん事を望みて止まらぬ。
(完)

し、唯自己及自己一黨の代表する輝く身分を思ふ
利權獲得に狂奔するのみ。高い誇りを以つて堂々町
噫 斯くして遂に議員否
政公論場公争公開してもら
認の叫びは高ま、政黨解
消の國民運動は起るに至つ
た。
平町議員卅名諸君一千名
唯一人の自分の光榮ある立
場を考へ、三萬大衆の民意

東北六縣北海道
縣會役員會開催
農村豫算復活を
全員中央に向つて全員上京陳情

商工春秋

平町議卅名、是れ平三萬の訴訟狂あり、長講一席や
大衆の代辯者である。千人りたがる演説狂の一言居士
中唯一人の選良である。
一般大衆は日常生活多事コム木偶師あり、妥協と
多端にして町策樹立に専心
没頭する閑暇はない。
従つてわれらは卅名町議
諸君に御苦勞を願つて町政
に參與して戴いて居る。
われら大衆は町議諸君の
奉仕と献身に對しては心よ
り感謝してやまぬものであ
る。

し、かるに一部町議は大衆
の信賴を裏切り、民意を代
表せず、私利私慾に走り。
偏見と獨斷以つて町政を紛
亂する不心得千前なるもの
もある。
平地に波瀾を起して事件
を濫造して痛快がる事件屋
町議あり、一にも裁判、二
權勢の奴〇となり、大衆生
活を冒瀆し國民利福を度外

緊急社告

本號より大々的刷新するの計畫なりし
が未だ全部の準備整はざるを以て、次
號より刷新する事とせり冀はく吾徒の
微衷を容れて一層御指導と御後援あら
れん事を切に祈る

東北商工時報社
社長 堀 越 梅 吉
編輯主任 古 川 浩 民

小名濱の

魚市場

町と漁業組合が 近く妥協成立か

石城郡小名濱町では舊臘中として手数は地元の船取引魚市場の町管を實現せしむ高四十萬圓(手数料二分五)べく目下漁業組合と交渉を(手数料一分)縣内船同廿重ねてゐるが同町の魚市場(手数料六分一萬二千)は現在漁業組合内にあり(手数料八分三萬二千)とて代行してゐるが町として見込町は地元の船取引は現在の市場はバラツキ式に對する手数を一分五厘六で且全く狹隘となつてゐる千六百圓程度を徴せんとから築港の埋立地に移轉するもので將來町管となり且新に約五萬圓の資金は投取引上の信用高まれば廻船じ市場經營者を従來の如くただけでも取引高百萬圓餘に警水産工業會社に指定し上るであらうと豫想し計畫て取引を代行せしめ町は建を進めてゐるものであるが築資金償還のため取引高の種々利害關係が複雑して一分五厘程度を徴せしめたが最近町と組合側との交渉んとするもので昭和八年度渉の結果諒解成り妥協成立の取引高概算百萬圓を基準と觀望されてゐる。

内郷村は 平町に合併を

部落民絶對反對

平町では都市計畫法を實施爲め成行は頗る注目されてきたと共多年の懸案であつたところ長橋町に隣合する隣接部落の合併を企圖する内郷村大字小島部落民しこれによつて大平市を建は平町への合併は將來に於設せんとするが併合して幾多の弊害を醸し部落民れる部落のうちに種々のとして總てに大なる損失を利害關係があつて併合を躊躇故併合は絶對に反對する躊躇してゐるものも少なくないといふ満場一致で可決村當局の如し。

に陳情す。
平町の大都市計當に大なる
波紋を投げ與へられた。

色川製材火力汽罐の

設置のもつれあら

色川、井上、佐藤三氏 強制收容さる

平町色川製材株式會社工場會社城銀行が昭和七年月の火力發動機設置反對に端十月の所有する平町振興を發し平町選出政友派縣會小路地内敷地立坪を購入議員井上茂作(六七)色川製材するに當り清算検査員とし會社々長色川勝三郎(五三)石て事務に従事した井上茂作城郡内郷村消防組頭佐藤三氏が色川、佐藤兩氏の請託平(五三)の三名が色川工場のを受けて時價坪當り卅圓の敷地買収に關して贈收賄を前記敷地に對して坪廿圓五行つた嫌疑濃厚となり去る十錢の評價をなし兩名に特十七日午前一時遂に收容さ賣し一萬一千四百圓の不當れるに至つたが井上氏は縣利得を得せしめ報酬として下政界並に實業界の大立物多額の贈賄を受けたことがだけに非常な衝動を與へ成發するに至つたものであり行を重視されてゐる。事件の内容は先に破産した株式

福島公立病院 議員選舉

公立福島病院議員は任期満 大内一郎、田子健吉、了となるので一月三十一日佐藤元治、三浦勇、島貫柳改選する定員は福島市四名、片平萬吉、渡邊隆治、信夫郡六名伊達郡九名安達 阿部巳之吉、遠藤利三郎、郡三名計廿名であるが早く菅野善右衛門、大内源吉、も立候補の準備を行つてゐる松田甲次郎、金子興太、る者もある激戦を豫想され、角地石和司、加藤宗平、角田勘左衛門、武田正義、

八面觀

願してゐます。
△村民に指彈されて居る癖に病院議員の野心があるなんて何處迄面の皮が厚いか分らないよ。(身程不知)
△平町邊に月三拾圓の手當を下さる方に妾になりますと云ふ美人が居るとの話
△不景氣の爲めか藝妓のサービス振りには驚の外はないといふ、先達の晩福
△飯坂の〇〇子さんはお嫁になりたといふ八幡様に祈齋藤善三郎、菅野善三郎、遠藤保隆、半澤吉四郎、

本縣の凍豆腐 全國第一位

規格不統一ため
當業者を集め

郡山商業銀行 株主總會 年五分配

本縣産の凍豆腐は近術の點に於て非常な進歩を示し質に於ては全國第一位で本年の産額は十萬圓を突破するものと見られ東京、大阪、名古屋の大市場を初め米國滿洲等からも注文殺到し到底需要に應じ切れない状態なので縣では寒國の副業として大々的振興を努めて居る、規格不統一の爲め市場取引に不便が多いのでこれが一を勵行すべく當業者を集め規格統一出荷統制等に就いて協議會を開いた。

大賣出

×紀州静岡
本場密柑
歳末年玉御進物用
舊正月飾
一切
三三三
店商屋國三三
番一五四話電

矢内清治

須藤清藏

花の井

高木長年

鈴木爲之助

荒川熊藏

村長末次郎

石城郡上遠野村

石城郡小名濱町

石城郡上遠野村

石城郡上遠野村

石城郡上遠野村

強口唯七郎

濱屋旅館

鈴木長吉

鈴木長吉

鈴木長吉

鈴木長吉

鈴木長吉

鈴木長吉

鈴木長吉

鈴木長吉

鈴木長吉

鈴木長吉



お雑煮

「馬鹿なことを」
下女 「それやKさんと同
じなのね。」
笑せやがる手前と一緒に
されて堪るものか。
下女 Kさんは口が悪いの
ね。
口が悪いのも好いでる
人があるんだよ。
下女 でも旦那さんはK吉
の馬鹿にも困るつて云
つてたもの。
「糞ッ、面白くない」
離では歌留多でも初めたで
あらかた朗々たる聲で。
懲りつても淵となりぬ
る。
下女 アレごらん、お嬢さ
んや春さんなご大勢で
面白そうに歌留多取り
をして居るぢやないの
か。
Kさんも行ってご覧よ。
K吉は嫉妬の眼で離れを凝
視して居た。
下女は餅腹を抱えて轉寝し
泰平樂の夢でも見たであら
うか。獨りエ頭を作つて居
た。(完)

下女 「だから前さんは何
つて程低脳なのよ、旦那
さんにタマされて酷き
使はれて居ると思ふと
可愛想になるの。」
下女 「……………」
下女 元且から縁起でもな
い佛頂面をしてさ、少
し賑やかな顔でもおし
よ。
とシッペイ返しを喰ッ
て。
「糞ッ、面白くない」
離では歌留多でも初めたで
あらかた朗々たる聲で。
懲りつても淵となりぬ
る。
下女 アレごらん、お嬢さ
んや春さんなご大勢で
面白そうに歌留多取り
をして居るぢやないの
か。
Kさんも行ってご覧よ。
K吉は嫉妬の眼で離れを凝
視して居た。
下女は餅腹を抱えて轉寝し
泰平樂の夢でも見たであら
うか。獨りエ頭を作つて居
た。(完)

人物月旦

石川松樹氏

石川松樹氏は茨城縣の人にと雖、徒歩出張して親切惠
して幼少より石城郡三坂村者は氏を待つ恰も赤子の慈
石川家に入り養父の業を繼母を待つが如し氏は學は深
く氏は地方に於ける非凡な思想は高く主義は極めて
性慧敏にして而も沈着少年平民的な人、無口で温厚和
時代より早く既に有爲の氣風にして未だ曾て象も驕る
宇顯る天君の稟性を愛し多量なく胸間清明にして愛慕の
順境に立つの光榮を得せ念を生せしむ。氏は亦人格
高尚にして時流に秀でたる
相馬中學校を卒業後北海道識見を持つ徳行頗る卓然に
旭川師團に入營團長に昇進するものあり眞に横絶的國
除隊となる後更に北東帝國たり地方醫界の人格者とし
大學醫學部附屬醫學專門部で仰がる昨年の議改選に當
に入る天稟の才に加ふに勤り最高點當選、氏の平常の
勉を以つてし研學精勵の効徳行に報ゆる村民諸氏の赤
積み優秀の成績を以つて大心の表理に外ならない。
醫學の卒業し進んで一意恵心夫人キヤ女子史は内政を切
醫學の研究に身を致し終始廻り廻り主人を助けて大に効
一貫學理と實地に醫學の蘊ありと亦村内に重視せらる
興を極め學卒へ郷黨に歸り此の夫人あり羨望の的とな
開業し今日に至るまで十數年や宜べなる哉と謂ふべき
年同交通不便なる山間僻地や。

叶多組頭の美譽

鐵骨火見槍の奇附
叶多組頭叶田清氏は
日露の勇士として勳八等功
七級の名譽を帯ぶる勳績十
二年の名消防組頭として斷
然の第一人者である。
冬期火災季節には全村部
隊十二ヶ所の夜警小屋を
回遊巡邏して組員の統制
の好成績を挙げ、而も同消
防組は金馬籠十八條の輝く
記録を有する、是れ組頭叶
多清氏の奉仕献身の致す所
である。
氏は今度役場地内に工費
八百余圓を投じて鐵骨火見
槍一臺を献じ去る十四日、
朝野の名士、斯界關係者數
百名を招待して盛大なる落
成式を舉行して本部消防界
の一大美譽として各方面よ
り氏の行爲を稱讃してゐる
氏は先年小學校にも花崗
石の校門を寄附したる事も
あり、重ねての叶多氏の
社會奉仕的美譽は盛季の現
代に推稱すべき富豪善行で
ある。

社告

永山秀夫

右者都合に依り解
雇致候此段謹告候
也
昭和九年一月二十日
東北商工時報社

名湯化園鑄泉
神經系統胃腹に靈効
東白川郡棚倉町旅館
御料理 權現湯
東白川郡同小學校長
加藤忠壽

小田吉治
萩原申八
野木喜久次
東白川郡竹貫村消防組頭
東白川郡竹貫村郵便局長
東白川郡同小學校長
加藤忠壽

有馬館
山形縣上の山新湯
電話一七六番
東白川郡同
農藝學校長
根岸元吉

支那そば 上海
滋養美味
出前迅速
電話五四五番

須賀川町
好問鑛業所
萩原炭礦株式會社
須賀川町
株式會社笠原組須賀川工場
笠原花深 深志
笠原現業 長完

郡山市
東部電力株式會社
郡山支店
平營業所

須賀川町
母畑水電株式會社
郡山市
郡山通運株式會社

須賀川町
商品倉庫株式會社
郡山市
株式會社丸伊吳服店
社長 今泉得三

郡山市
東白川郡近津村
岡山定 穗宮司 大手 矛磨

土木監督所長
東白川郡近津村
岡山定 穗宮司 大手 矛磨

謹賀新幸

棚倉町長

宗田利助

收入役

田中信次

棚倉町

町會議員一同

東白川郡
土木請負業

江口伊六

佐川義房

菊地常吉

白坂章

近津驛長

大和田泰治

石井驛長

市毛祐宗

警城驛長

長島寅吉

東館驛長

大沼忠藏

豊里村消防組頭

金澤壽

東白川郡豊里村
消防組頭

荒川清

東白川郡宮本村
消防組頭

水野政三

料理旅館

花屋

東白川郡常豐村
早田政市

鐵道省指定旅館

那須屋旅館

東白川郡豊里村東館

東白川郡石井村

美那登屋旅館

金澤義光

東白川郡竹貫村

辰巳屋旅館

東白川郡鮫川村
湯田温泉

鈴木旅館

東白川郡鮫川村
湯田温泉

西島旅館

東白川郡高城村

丸屋旅館

東白川郡笹原
志保野温泉

丸屋旅館

東白川郡笹原

鈴木要

東白川郡笹原
湯岐温泉

和泉屋旅館

大森耕太郎

東白川郡棚倉町
材木新炭

渡邊松太郎

電話四十八番

東白川郡棚倉町

柳屋吳服店

電話三十五番

東白川郡高城村

小川屋吳服店

電話十三番

東白川郡竹貫村

秦春次

東白川郡鮫川村
郵便局長

大池康義

東白川郡笹原
新炭問屋

小峰堅藏

(福田屋號)

矢内英次

電話一番

近内光美

電話二番

綠川豊一

電話一番

竹貫村役場

電話四番

渡邊知勝

電話五番

辰巳屋旅館

電話六番

矢内常吉

電話七番

福南自動車

電話八番

竹貫營業所

飯坂湯野温泉

花水館

角州閣

小瀧屋

赤川喜屋

若丸す

稻田丸

龜花屋

立野花屋

湯本野屋

橋本野屋

信夫屋

泉屋本店

東松館

新松葉屋

前野屋

平野屋

龜家江

春日の

藤家の

春日の

竹花屋

平町驛前

秋山又方ネ店

播櫃小路一號

國村商店

電話五三八番

(安)問屋

安藤和太郎

福島縣警越東線川前驛前
本店平町安藤金次

福島縣石郡川前驛前

菊地木炭問屋

仙臺の靴

製造

販賣

平町播櫃小路四番地

仙臺屋靴店

店主渡邊勘太丈

伊達郡湯野
村長安田徳治

助役 畠徳七

湯野尋常小學校
職員一同

飯坂出張所

福島電燈株式會社

日東製糸株式會社

伊達工場

土木建築業
菱沼寅吉

飯坂小學校

一二階堂英一

好間軌道會社社長

山崎佐市郎

福島縣農工銀行

福島電燈株式會社

東部電力郡山支店

株式會社

郡山市池の臺
第十二厚生舍

岩田秀造

郡山市

根本商店

株式會社

郡山商業銀行

郡山商業銀行本宮支店

須賀川町

母畑水電株式會社

須賀川町

商品倉庫株式會社

郡山通運株式會社